『計量国語学』アーカイブ

ID	KK290501
種別	論文
タイトル	日本語非母語話者の日本語接触場面における心理面の調
	節
	―アジア系留学生の相手言語接触場面と第三者言語接触
	場面を対象に―
Title	Non-Native Speaker's Internal Conversation Process
	in Japanese:
	Focusing on Asian Students' Third-party and Partner
	Language Contact Situations
著者	赤羽 優子
Author	AKAHANE Yuko
掲載号	29巻5号
発行日	2014年6月20日
開始ページ	131
終了ページ	153
著作権者	計量国語学会

日本語非母語話者の日本語接触場面における心理面の調節

一アジア系留学生の相手言語接触場面と第三者言語接触場面を対象に一

赤羽 優子

(筑波大学大学院生 日本学術振興会特別研究員)

要旨

本稿の目的は、日本語非母語話者が関わる日本語会話場面の心理面の調節を明らかにし、対話者が日本語母語話者の場面と非母語話者同士の場面で、どのように変動しているかを検討することである。本稿は74名のアジア系留学生を対象に、会話に必要な注意・気遣いを、対話者が日本人/留学生の2場面でどの程度行っているかについて質問紙調査を行った。得られた148ケースについて因子分析をした結果、6つの配慮が抽出された。また各因子の因子得点についてt検定した結果、対話者が日本人の場面では、相手の様子に注意を払い、対立や問題を避けようと意識する一方、留学生同士の場面では、自己表現を積極的に行い、話の内容を深めようと意識していることが明らかになった。この結果から、心理面の調節を変動させることが「母語話者と話すときは緊張するが、非母語話者同士で話すときはリラックスできる」という非母語話者自身の見解と関連していることが示唆された。

キーワード:接触場面,相手言語接触場面,第三者言語接触場面,心理面の調節, 意識的配慮,アジア系留学生,因子分析,t検定,分散分析

1. 背景と目的

1.1 接触場面の多様化

人の国際的移動が活発化した現代では、背景が異なる人々同士の接触が日常化してきている。母語話者(日本人)と非母語話者(外国人)がやりとりをする場面は「接触場面」と呼ばれ、Fan(1994)は接触言語を基準に次のように分類した。まず会話の参加者一方が母語を用い、一方は非母語を用いる従来の接触場面が「相手言語接触場面(Partner Language Contact Situation、以下 PLCS)」、そして参加者いずれもが母語ではない第三者の言語を用いる場面が「第三者言語接触場面(Third-party Language Contact Situation、以下 TLCS)」である。国際語(Smith 1976、Crystal 2003)である英語は、ビジネスや国際会議、観光において多くの TLCS をもたらしている。また日本語学習者の多様化(春原2008)を受け、日本語の TLCS も顕在化してきた。日本国内の状況として、地域の外国人ネットワークにおけるボランティア活動やアルバイト、日本語教育場面における日本語母語話者でない教授者と学習者、学習者同士などがあげられる(ファン 1999)。このような状況に特に関わるのは、日本語学習または日本語で勉強することが前提となり、背景の異

なる人と同時に付き合うことが多い留学生であると考えられる。日本国内の留学生は平成22年度に14万人を超え(独立行政法人日本学生支援機構2010)、今後も増加が見込まれる。その中でも中国、韓国、台湾、マレーシアをはじめとするアジア系留学生は全体の9割を占め、大学など高等教育機関において重要な存在である。

1.2 接触場面と留学生

日本における留学生研究は、留学生教育や異文化間コミュニケーションの分野で行われてきた。岩男・萩原(1988)による留学生の対日イメージ調査では、在日留学生は日本人の「勤勉性」や「信頼性」を高く評価し、アジア系留学生は欧米系留学生よりも対日イメージが悪いことが報告された。これを受け山崎(1993)は、アジア系留学生の対日イメージに影響する要因を探り、日本語能力でなく対人関係が、対日態度に直接影響を及ぼしていると主張した。また田中(1995、2000)によると、留学生は対人関係形成の困難の要因が、日本人と留学生双方のソーシャル・スキルの欠損にあると認識しているという。これらの研究は、日本人との対人関係に関する心理的問題を明らかにし、留学生が日本社会に適応するための援助を検討するものであった。近年では、Simic, Tanaka & Yashima(2007)、Simic & Tanaka(2008)によって、日本人とだけでない留学生間の日本語使用と、社会文化適応との関連が指摘され、多様化する対人場面と言語使用に対しても目が向けられ始めている。

日本語教育の分野では、留学生は「PLCS における非母語話者」「教室場面における学習者」として研究されてきた。特に母語話者の言語行動との違いに注目が集まり、誤用(長友 1990)、中間言語(家村 1993、田丸・吉岡・木村 1993)、コミュニケーション・ストラテジー(尾崎 1993、藤長 1996)研究として発展してきた。また言語管理理論(Neustupný 1985)に基づいた、問題解決に関わる学習者の言語的調整行動¹にも多くの関心が寄せられている(村岡 2002、加藤 2010)。

以上のように留学生の接触場面は、日本人と関わりながら日本社会や日本語使用に適応する過程と捉えられてきた。そして心理的問題への援助と、言語的問題を解決するための言語行動について多くの知見が得られてきた。しかし留学生の声に耳を傾けると、「日本人と話すときは緊張する」「留学生同士で話すとリラックスして話せる」(ファン 1999、新井 2012)といった、実際使用場面(ネウストプニー1995a)で言語問題が起こる以前に、対照的な意見がしばしば聞かれる。同じ日本語使用場面でありながら、PLCSと TLCSで見解が分かれるのはなぜだろうか。このような疑問は、従来の研究では言語面の調節²に焦点が当てられ、学習者の言語能力不足を理由に結論づけられることが多かった。しかし「日本語の一使用者としての留学生が、どのように考えながら日本語会話に関わるのか」という観点から心理面を考察することも、留学生の接触場面を議論する上で重要ではないだろうか。そこで本研究は、日本語使用者としてのアジア系留学生を対象に、TLCS(留

¹ 接触場面において、インターアクションの相手がある行動をとった場合、人はそれを解釈して何らかの調整行動をとる(Neustupný 1985).

² インターアクションの研究においてはしばしば「調整」という言葉が使われる。言語管理理論の考え方では、言語問題の解決のために行う手続きの1つとして「調整」が位置づけられている(ネウストプニー1995b)。本稿では言語問題の解決に限らず、会話の過程に関わる何らかの働きを示すために「調節」を用いる。

学生同士)及びPLCS(留学生と日本人)の心理面の調節を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 心理面の調節としての意識的配慮

日本語会話における心理面の調節は、桑原・西田・浦・榧野 (1989)、西田・浦・桑原・榧野 (1988) によって、話者が会話を成立させるために行う処理規則として研究されてきた、桑原らは日本人同士の会話において、対話者や発話遂行、情緒や理解に志向する表現を用いるなどの意識的な処理規則を明らかにしている。

桑原らの研究を元に一二三(1995)は、会話を進める際に、話者同士が対話者に応じて行う心理面の調節を「意識的配慮」として提示した。「意識的配慮」は「相手への心配り」という「配慮」の狭義の意味を超え、「遠慮」や「気遣い」だけでなく、「積極性」や「率直さ」などを含めた心理面の働きを指す。その研究方法は、桑原らと一二三による一連の研究で確立されている。まず会話を行うために必要な注意・気遣いに関する自由記述から項目整理を行い、質問紙を作成する。そして質問紙調査を実施し、得られた評定値について因子分析を行って、処理規則すなわち意識的配慮を特定するというものである。

この方法によって一二三(1999)は、日本人が母語場面(日本人同士の場面)及び接触 場面で行う意識的配慮を調査した、その結果、日本人は外国人に対して自己表現を控え、 会話が中断しないよう配慮する一方、日本人同士では自己の積極的表現をしようと意識す ることを明らかにした. 同様の方法で一二三(2000. 2003. 2010)では. アジア系留学生 が日本人と日本語で話す場面と、母語を同じくする留学生同士が母語で話す場面を対象に 調査を行っている。日本人との会話では、留学生は正確な理解を心がけ、自己表現を抑制 して相手との距離を保とうと配慮する。同母語の留学生同士の会話では、会話を滞りなく 進め、自己の感情や意見を明瞭に表現しようと配慮することが明らかになった。これらの 研究から、日本人と外国人が対話者に応じて心理面の調節を変動させていることが確認さ れた、また対話者と母語が同じ場合は積極的な自己表現を、母語が異なる場合は会話の維 持を意識する傾向が示された. しかし一二三 (2000, 2003, 2010) が扱ったのは, 対話者 と使用言語(日本人と日本語で/同母語の留学生同士が母語で)が異なる2つの場面を1 つにまとめ、留学生が「何らかの言語を用いて会話する際の」心理面の調節である、つま り日本語を母語としない留学生同士の日本語会話場面は対象にされていない。そこで本研 究は、留学生が関わる日本語会話において、対話者が日本人か留学生かという違いが心理 面の調節にどのように影響するかを探ることにする。そして一二三の研究結果と比較する ことによって、日本語会話に関わる日本語話者の心理面の調節の全体像を把握することを 目指す.

2.2 留学生の日本語会話

留学生の日本語会話は、PLCSで用いられるコミュニケーション・ストラテジーを中心に研究されてきた。インターアクションで言語問題が起きた際の聞き返し(尾崎 1993、椿 2010)、コード・スイッチングや言い換えなどの発話ストラテジー(田中・中畠・古河 1983、藤長 1996、大平 2000、三牧 2005 など)に関する多くの研究蓄積がある。村岡 (1992) は学習者がよく使用する方略として、話題回避、語彙の簡略化などの回避ストラ

テジーを提示している。一二三(2010)もトラブルを未然に防ぐ意識が活性化されると指摘しており、PLCS では言語的にも心理的にも、問題を大きくしないような働きかけが重視されると言える。

一方 TLCS の研究は、1990 年代後半以降散見されるようになった(内田 1997、ファン1999、2003、2011).ファン(1999)はこの場面の特徴として、言語ホストーゲスト関係が成立しないこと、参加者は全ての言語問題を解決しようとはしないことなどを挙げている。これに対し春口(2004)は、上級と中級の学習者同士と上級と母語話者間の会話を比較し、言語ホストーゲストの役割は学習者同士の能力の上下によって固定されるわけではなく、入れ替わると述べている。また岩田(2006)は会話におけるイニシアチブの形成に注目し、学習者同士は全体的に会話参加が対称的になることを明らかにしている。よってTLCSでは、関係が流動的で言語問題も重視されないため、PLCSとは異なり問題を重視せず、対称的な参加を志向するような調節が心理面でも現れると予想される。

以上を踏まえ、本研究では話者同士が対話者に応じて行う意識的配慮を、会話における心理面の調節と捉え、留学生の日本語会話を対象に調査を行う、そして心理面の調節を構成する因子を明らかにする。さらに、対話者が日本語母語話者であるかそうでないかが、心理面の調節にどのように関係するかを検証する。最後に今回の結果と先行研究を参照し、日本語非母語話者の日本語接触場面における心理面の調節ついて考察する。本研究は、これまで言語能力に欠ける学習者とされてきた非母語話者を日本語使用者として捉え直し、言語面ではなく心理面から接触場面について議論し、日本語が用いられる会話の内的プロセスを概観しようとするものである。

3. 調査

3.1 調查方法

留学生が日本語で会話する際に行う心理面の調節を明らかにするため、桑原他 (1989) 一二三 (1995, 2000) を参考に、質問紙調査と因子分析を行った。

まず、一二三(2000)が作成した「留学生が会話中に行う意識的配慮」に関する 48 項目と、ファン(1999)による留学生の日本語会話についてのインタビュー調査結果を照らし合わせた。そして内容が重複する記述をまとめ、類似項目を整理して、最終的に 41 の質問項目を作成した 3 (付録参照)。調査協力者には、日本人と日本語で話す場面(PLCS)と留学生同士で日本語を話す場面(TLCS)を想定させ、それぞれの場面で 41 項目をどの程度行っているか、「5 = とてもよくあてはまる」から「1 = 全くあてはまらない」までの5 段階 4 で評定してもらった。調査は 2004 年 5 月から 2012 年 7 月に、対面で実施した。

^{3 41} 項目中 20 項目(項目番号 2, 4, 5, 6, 8~11, 13, 17, 18, 19, 22, 27, 28, 31, 33~36) は一二 三 (2000) から、16 項目(1, 3, 7, 12, 14, 15, 16, 20, 21, 23, 24, 25, 26, 29, 32, 37) はファン(1999)のインタビュー調査の分析と重複・類似する内容をまとめ直し、5 項目(30, 38~41)はファン(1999)の記述から新たに項目化した。なお、一二三(2000)で用いられた項目の中で、本研究の調査票から除いた項目は、「遠慮をしない」「笑いながら話す」「相手の感情を害しそうな話題は避け平凡な話題を選ぶ」「断定的な言い方は避ける」「誤解が生じないようにし、生じたらよく説明する」の5 項目である。

⁴ 評定法を用いる質問紙調査の回答方法では、統計分析の使用に耐えるよう4段階以上が望ましいとされる。選択段階が多すぎても段階間の差違が曖昧で意味がなくなり、調査協力者への負担も大きくなるため、段階数が奇数で調査協力者への負担も最小限となる5段階を設定した。

3.2 調査協力者

調査協力者は、関東圏内の大学に在籍するアジア系留学生74名である。出身国は、中国48名、韓国7名、ウズベキスタン4名、タジキスタン3名、カンボジア、マレーシア、台湾各2名、インドネシア、カザフスタン、キルギス、ベトナム、モンゴル、ラオス各1名である。また母語は、中国語48名、韓国語7名、ウズベク語4名、モンゴル語、タジク語各3名、クメール語、マレー語各2名、インドネシア語、カザフ語、キルギス語、ベトナム語、ラオス語各1名である。つまり調査協力者の64.9%を中国出身者または中国語母語話者が占めることになる。そこで出身国と母語の偏りの影響を確認するため、出身が中国かそれ以外かの2条件を被験者間要因として、協力者から得られた各質問項目の評定値についてt検定を行った。その結果8項目に有意差が見られた5。しかし独立行政法人日本学生支援機構(2010)によると、アジア地域からの留学生の60.8%は中国出身であることから、出身国と母語の偏りはアジア系留学生の母数を反映したものとみなした。調査協力者の日本語能力は中級以上、滞日期間は1年未満43名、1年以上2年未満21名、2年以上7名、無回答3名であった。年齢は20代68名、30代5名、無回答1名、性別は男性23名、女性49名、無回答2名であった。

質問紙は、中国語(簡体字、繁体字)版、韓国語版、英語版、日本語版を作成した。各言語の母語話者に日本語版の翻訳を依頼し、翻訳者以外の母語話者によるネイティブチェックを経て調査に使用した。調査協力者自身に最も回答しやすい言語を選んでもらい、調査を実施したが、調査票言語の習熟度は自己申告であったため、質問紙の配布・回収は全て調査者本人が行い、不明点の質問に応じるようにした。選択された調査票言語は、中国語簡体字 48 名、繁体字 2 名、韓国語 7 名、英語 15 名、日本語 2 名で、母語と調査票言語が同一の者は 55 名、異なった者は 19 名であった。つまり選択された調査票言語は、第一言語または出身地の公用語と基本的に一致しており、出身地の母語または公用語による調査票がない中央・東南アジア系留学生が、英語または日本語を選択していた。なお母語と調査票言語の一致/不一致の 2 条件を被験者間要因として、得られた各質問項目の評定値について t 検定を行った。その結果 6 項目に有意差が見られた 6.有意差が見られた項目の半分は、出身国の偏りの影響についての分析結果と重なっていたため、母語と調査票言語の一致/不一致による影響も、概ねアジア系留学生の母集団を反映したものとみなした。

4. 結果

4.1 アジア系留学生の心理面の調節

アジア系留学生の心理面の調節の構成を明らかにするため、調査協力者 74 名各々から得られた 2 種類の接触場面についての評定を合計 148 ケースとみなし、SPSS19.0 を使用

⁵ 有意差が見られた 8 項目は次の通りである。項目 5: t(146)=2.97, p<.01, 項目 6: t(146)=2.97, p<.01, 項目 12: t(65.8)=2.17, p<.05, 項目 14: t(74.1)=3.35, p<.01, 項目 18: t(146)=-4.09, p<.01, 項目 28: t(146)=-2.09, p<.05, 項目 31: t(146)=3.10, p<.01, 項目 32: t(146)=-4.23, p<.01.

⁶ 有意差が見られた 6 項目は次の通りである.項目 4: t(146)= -2.97, p<.01, 項目 5: t(146)=3.72, p<.01, 項目 6: t(146)= -4.88, p<.01, 項目 10: t(65.8)= -2.98, p<.01, 項目 18: t(146)= -3.39, p<.01, 項目 23: t(146)= -3.85, p<.01.

して、因子抽出法に最尤法を用いたプロマックス回転⁷を行った。固有値 1.0 以上を基準として、解釈可能な 13 因子を得た(累積寄与率 67.55%)。しかし因子を構成する項目が 1 つの因子や、当該の因子以外に同程度の負荷量を示す項目が存在することから、2 つの 因子にわたって 0.35 以下の低い負荷量を示した 8 項目 ⁸を除外して、再度因子分析(最 尤法を用いたプロマックス回転)を行った。固有値 1.0 以上を基準として、最終的に解釈 可能な 6 因子解が最も適当と判断した(累積寄与率 51.56%)。因子分析結果は斜行回転 によるものであるため、表 1 に因子間相関を示す。第 4 因子と第 1、2、3 因子には、やや 高い相関が見られた。

IV V VI T Π Ш Τ 1.000 П .396 1.000 \coprod .283 .349 1.000 IV .447 .488 1.000 .478 V -.077 .119 .084 .009 1.000 VI -.103.005 .230 -.019 .109 1.000

表 1: 因子間相関

次に、それぞれの因子における各項目の因子負荷量を、因子パターン係数によって表 2 に示す。抽出された因子を、因子パターン係数の大きさと因子間の相関に基づき命名を行った。因子負荷量が 0.5 以上で、因子の構成に強く寄与する項目を中心に解釈をしていったが、先行研究との比較を考慮し一二三(1999、2000)を参考に、因子負荷量が 0.5 以下の項目も因子構成に反映されるような命名を行った。

第1因子は、わからないことを反復確認する項目(「14. わからない内容は繰り返してもらい確認する」「15. わからない言葉は繰り返してもらい確認する」)が 0.7 前後の因子負荷量を示し、強く第1因子に寄与している。次に、相手の発話を促し理解に努める項目(「16. 相手にも話す機会を与える」「12. 相手の話の内容を正確に理解しようと努める」「40. 相手の発話を肯定する」)が、 $0.4\sim0.5$ の因子負荷量を持って因子を構成している。そこで第1因子は、「不明点確認を行い、相手の話の理解に努める配慮」と解釈した。

第2因子は、自分の感情や意見を明確に表す項目(「2、感情をはっきり出す」「3、自分

⁷一二三 (1999, 2000) では主因子法を用いたバリマックス回転がとられているが、因子の解釈を容易にし、因子間の相関も解釈できる(豊田 1998) ことから、本稿では最尤法を用いたプロマックス回転を行った。なお、分析過程において主因子法を用いたバリマックス回転による分析も行った。結果として第2因子と第4因子が入れ替わったものの、因子負荷量が0.5以上で各因子の構成に強く関わる項目は同じであったため、一二三との比較も可能と判断した。

⁸ 因子分析から除外したのは次の8項目である. 「18. 話が途切れないように気をつける」「27. あいづちをうつ」「29. 敬語を使う」「30. 日本語でなんというかわからない単語を自分で作る」「31. 気楽に話す」「33. 自分の関心のあるテーマについて話す」「38. 日本語に特有の表現(やりもらいの表現など)を使うようにする」「41. 自分の言い方が間違っていることに気づいたらすぐ言い直す」.

表 2: 因子構造

因子										
	番号	質問項目	I	П	Ш	IV	V	VI	共通性	
	14	わからない内容は繰り返してもらい確認する	. 701	113	110	. 098	. 188	013	. 540	
第	15	わからない言葉は繰り返してもらい確認する	. 688	. 015	. 041	094	. 070	087	. 550	
第 1	16	相手にも話す機会を与える	. 484	. 088	. 244	. 077	 131	075	. 660	
因子	12	相手の話の内容を正確に理解しようと努める	. 463	. 071	. 082	. 129	161	. 050	. 596	
,	40	相手の発話を肯定する	. 415	087	. 114	131	. 052	028	. 326	
	5	日常的なことを話す	. 402	. 232	002	178	. 123	. 025	. 337	
	2	感情をはっきり出す	. 071	. 713	180	. 134	. 023	. 032	. 610	
	3	自分の意見はストレートに言う	. 085	. 669	141	042	. 029	127	. 527	
	4	いやならいやとはっきり言う	102	. 584	. 026	206	. 164	 115	. 396	
第	6	相手と意見が違うときは納得いくまで話す	088	. 444	024	069	. 187	. 055	. 328	
2 因	8	文法的に正しく話す	180	. 442	. 296	. 042	083	. 006	. 504	
子	7	冗談を言って相手を楽しませる	052	. 433	. 107	. 122	. 347	092	. 571	
	1	自分の意見を積極的に言う	. 132	. 418	. 053	. 113	017	. 129	. 507	
	9	正しく発音する	056	. 412	. 338	. 028	 135	029	. 532	
	28	省略できることばは短く省略する	. 178	. 361	063	062	118	. 320	. 420	
	23	議論は避ける	. 149	050	. 689	339	106	. 039	. 452	
	21	相手の反応から、相手の感情や意見を推測する	. 274	066	. 565	. 003	. 120	. 003	. 565	
第	20	相手の反応に合わせて、自分の意見を変える	313	. 007	. 554	. 026	. 275	. 063	. 473	
3 因	22	相手が自分をどう思っているかに注意する	058	065	. 484	. 133	. 295	. 050	. 493	
子	24	中立的な立場で意見を言う	. 073	064	. 452	. 120	115	. 076	. 455	
	19	相手の気持ちを考え失礼にならないようにする	. 158	. 008	. 434	. 264	073	. 105	. 607	
	34	お互いに共通することを話題にする	. 193	011	. 364	. 097	. 221	213	. 459	
第	10	自分と相手との文化慣習の違いに注意する	193	104	064	. 934	. 045	073	. 521	
4	11	相手が自分の話を正確に理解しているかに注意する	. 154	. 009	161	. 719	. 048	. 025	. 561	
因子	13	言葉づかいは適当かどうかに気をつける	127	. 167	. 192	. 449	137	. 031	. 516	
1	17	相手の話を最後まで聞く	. 284	122	. 204	. 369	032	065	. 611	
第	37	複雑な考えと内容を伝える	028	. 095	028	. 056	. 655	016	. 409	
5	35	プライベートなことでも話す	. 189	018	. 017	225	. 619	. 083	. 450	
因	39	相手の発話を自分の発話で補う(サポートする)	. 082	. 096	021	. 094	. 435	. 060	. 423	
子	36	身振りやジェスチャーを多く使う	. 222	. 060	. 072	. 127	. 357	. 117	. 502	
第	26	言葉がわからなくてもわかったふりをする	059	066	112	. 119	. 179	. 943	. 710	
6 因	25	内容がわからなくてもわかったふりをする	020	. 006	. 208	207	. 067	. 737	. 729	
子	32	うまく説明できないことは話さない	123	049	. 254	. 013	173	. 385	. 436	
		固有値	6. 33	3. 03	2.51	1. 92	1.74	1.48		
		寄与率	19. 18	9. 19	7.61	5.83	5. 28	4.44		
		累積寄与率	19. 18	28.37	35. 99	41.82	47.11	51.56		

の意見はストレートに言う」「4. いやならいやとはっきり言う」)が因子負荷量 0.5 以上で第 2 因子に強く寄与している。 0.45 以下の負荷量を示したのが、相手へ自分の主張を妥協せず積極的に伝える項目(「6. 相手と意見が違うときは納得いくまで話す」「1. 自分の意見を積極的に言う」「7. 冗談を言って相手を楽しませる」)と、正しく発話しようとす

る項目(「8. 文法的に正しく話す」「9. 正しく発音する」)であった。よって第2因子は、「自己表現を明瞭に行い、正確な発話に努める配慮」と解釈した。

第3因子は、相手の反応や考えに注意し、意見が対立しないように自分のふるまいを調整する項目で構成されている。「21. 相手の反応から、相手の感情や意見を推測する」「20. 相手の反応に合わせて、自分の意見を変える」「23. 議論は避ける」の3項目が、0.5~0.7 の高い因子負荷量を示し、0.4~0.5 を示したのが、「22. 相手が自分をどう思っているかに注意する」「24. 中立的な立場で意見を言う」「19. 相手の気持ちを考え、失礼にならないようにする」の3項目であった。よって第3因子は、「相手の反応に注意し、対立を避けようとする配慮」と解釈した。

第4因子は、相手との違いや、相手の理解の正確さに注意する項目(「10. 自分と相手との文化慣習の違いに注意する」「11. 相手が自分の話を正確に理解しているかに注意する」)が、0.7以上の高い因子負荷量を持っている。特に項目 10 は 0.9 を越え、第4因子の構成に最も強く寄与している。残りの 2 項目は、相手を尊重する項目(「17. 相手の話を最後まで聞く」「13. 言葉づかいは適当かどうかに気をつける」)であり、負荷量がそれほど高くなく、前述の 2 項目との差が大きい、そこで第4因子は、「相手との違いや、相手の正確な理解に注意する配慮」と解釈した。また表1で見たとおり、第4因子は第1、2、3 因子と中程度以上の相関を示している。これは第4因子が、相手の話の理解(第1因子)や相手の反応への注意(第3因子)に関連する、相手への気配りを構成しているためであろう。続く第5、6 因子には中程度以上の相関が見られず、第1~4 因子とは異なる心理面の調節として位置づけられると見られる。

第5因子は、因子負荷量が0.6以上の、会話内容を深める発話をする項目(「37.複雑な考えと内容を伝える」「35.プライベートなことでも話す」)と、負荷量が0.5以下の、お互いの発話を補充する項目(「39.相手の発話を自分の発話で補う(サポートする)」「36.身振りやジェスチャーを多く使う」)から構成されている。複雑な考えやプライベートなことを話し会話の内容を深めるというのは、一定の表現力があって可能になるが、それが難しい場合、発話を補う行動をとると考えられる。そこで第5因子は、「会話内容を深めようとし、発話を補う配慮」と解釈した。

第6因子は、わからないことは表明しない項目(「26. 言葉がわからなくてもわかったふりをする」「25. 内容がわからなくてもわかったふりをする」)が0.7以上の高い負荷量で集約され、そこに「32. うまく説明できないことは話さない」が加わって構成されている. 「表明しない」「話さない」という発話の回避は、相手への心配りや積極性を意味する「配慮」とはやや性格が異なり、自らの消極的な行動の「方略」に見える. 理解を取り繕って、表面的に会話を続けようとする項目が集まっていることから、第6因子は「不明点を表明せず、表面的にふるまう方略」と解釈した.

4.2 アジア系留学生の心理面の調節と対話者の関係

次に、特定された心理面の調節の現れ方に対する影響を探るため、対話者が日本人か留学生かの2条件を被験者内要因として、各因子の因子得点について対応のあるt検定を行うことにした。心理面の調節に影響を与える要因としては、滞在期間や日本語能力も考えられるが、在日年数が同程度(1年以上2年未満)の場合、在日年数も日本語能力も配慮の使い分けに影響を与えないとされている(一二三2000)。本研究の調査協力者もほとん

どが滞在期間 2 年未満であるため、影響が見られないと予想された、参考までに、各因子の因子得点を対象に、欠損値を除外して対話者×滞日期間を要因とする 2 要因の分散分析を行った、滞日期間は 1 年未満、1 年以上 2 年未満、2 年以上の 3 条件を設け、被験者間に配置された。分析の結果、滞日期間の要因については、有意差も交互作用も見られなかった。対話者要因の主効果については、第 2 因子(F(1,68)=7.55, p<.01)と第 6 因子(F(1,68)=7.62, p<.01)に有意差が認められた。このことから先行研究と同じく、心理面の調節には、滞日期間の影響は小さいことがわかった。そのため、今回は対話者のみを要因とした 1 検定を分析に用いることにし、結果を表 1 に示す。

		対言	舌者		
因子	留書	学生	日之	本人	(N=74)
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)		<i>t</i> 値
第1因子	.068	(1.18)	068	(1.04)	1.31
第2因子	.221	(1.07)	221	(1.10)	3.90***
第3因子	130	(1.02)	.130	(1.18)	-2.68**
第4因子	093	(1.05)	.093	(1.12)	-2.02*
第5因子	.124	(1.15)	- .124	(1.14)	2.33*
第6因子	- .225	(1.03)	.225	(.99)	4.02***

表3: 心理面の調節に与える対話者の異なりの影響(対応のある t 検定の結果)

t 検定の結果, 第1因子を除く全ての因子に有意差が認められた.この結果と平均値を 見ながら、対話者が異なる場面別に詳しく見ていく.

対話者が日本人である PLCS で有意に高く重視されるのは、第3、4、6 因子であった. 第3 因子は「相手の反応に注意し、対立を避けようとする配慮」、第4 因子は「相手との違いや、相手の正確な理解に注意する配慮」である。前節で相関も見られたように、両者共に相手の様子を注視する配慮である。相手との文化的違いを踏まえ、相手の反応から意見や理解を推測したり、自分の反応を調節したりするということは、留学生が日本人に対して常に気をつかいながら会話を行っていると考えられる。また各因子を構成する項目にある、議論を避ける(項目 23)、中立的な立場から意見を言う(項目 24)、言葉づかいに気をつける(項目 13)のは、衝突が起こらないようにしようと意識するためであろう。もう一つ重視される第6 因子は、「不明点を表明せず、表面的にふるまう方略」である。第3、4 因子との相関は見られなかったが、わからないことがあってもそれを明らかにはせず、説明できないことは言わないようにして会話を進めるというのも、問題の表面化を避けようと意識するためであろう。よって PLCS において特徴的な心理面の調節は、対話者に気をつかい、問題化しないようにする配慮であると言える。

一方,対話者が留学生のTLCSで有意に高く重視されるのは、第2,5因子であった。 第2因子は「自己表現を明瞭に行い、正確な発話に努める配慮」である。留学生同士で話 すときには、自己の感情や意志を押し込めることなく率直に表現し、開放的に会話に参加 する様子がうかがえる。同時に、発話の文法的・音声的正確さに気を配っているというこ とは、自分の発話をモニターできる余裕があることを示している。第5因子は、「会話内容を深めようとし、発話を補う配慮」である。会話内容を深めようとすると、表現内容も複雑になり、表現力が必要になって難易度も上がる。そこで発話やジェスチャーなどを工夫して、複雑な話を達成しようとすると考えられる。またプライベートなことを話す(項目35)というのは、相手との関係の近さが推察される。よって会話内容もお互いの関係も深めようとする意識が働いていると思われる。TLCSでは、開放的な自己表現と相互関係の深まりを志向する配慮が、特徴的な心理面の調節であると言えるだろう。

なお、第1因子「不明点確認を行い、相手の話の理解に努める配慮」については、有意な差は認められなかった。わからないことは確認してきちんと理解しようとする配慮は、日本語で会話する際に対話者が日本人であっても留学生であっても、同様に払われる配慮であると言えよう。これは第6因子「不明点を表明せず、表面的にふるまう方略」とは正反対に見えるが、第1因子は寄与率が19.18と6因子中最も高く、因子構造に強く関わっている。よってPLCSでもTLCSでも、基本的には不明点の理解に努めようとするが、PLCSでは不明点確認をしにくい何らかの要因があると思われ、次節で考察していくことにする。

5. 考察

本節では以上の結果を踏まえ、非母語話者の日本語会話(PLCS と TLCS)と非母語話者自身の母語での会話の意識的配慮(一二三 2000)、母語話者の日本語会話における意識的配慮(一二三 1999)を比較する。そして、非母語話者の会話場面における心理面の調節の構成と、場面によって異なる調節の現れ方を検討する。その上で、調節に影響を与える要因について考察する。

5.1 会話場面の心理面の調節

まず心理面の調節を概観するため、4.1節で得られた留学生の日本語会話に関する6つの調節を表4にまとめる。また一二三(2000、1999)が明らかにした、非母語話者と母語話者の意識的配慮を表5、表6に示す。各表には固有値と寄与率も付すが、因子構造の詳細については表2及び一二三(2000、1999)を参照されたい。

3つの表を見比べると、表6の母語話者の意識的配慮が、最も少ない4因子で構成されている。これに対し、表5の非母語話者自身の母語での会話と、日本人との日本語会話を合わせた意識的配慮が倍の8因子で構成されている。つまり使用言語が複数に渡ると、心理面の調節は複雑化することがわかる。次に、表4の第1~4因子が示すような相手への配慮と、各表の第2因子にある自己表現に関する配慮の寄与率並びに固有値が、全ての因子構造の上位にきている。さらに因子を構成する項目を細かく見ると、「相手にも話す機会を与える」という相手の発話を促す項目は、各表の第1因子に必ず含まれている。また、「感情をはっきり出す」(表4、5)や「自分の意見ははっきり言う」(表6)という明示的な表現についての項目も、第2因子に必ず関わっており、項目全体に対する影響力も高い。これらの項目が母語話者、非母語話者問わず全ての場面に共通するということは、

^{9 「}相手にも話す機会を与える」の因子負荷量は、各場面において、.484 (表 4) .556 (表 5) .699 (表 6) であり、「感情をはっきり出す」は、.713 (表 4) .740 (表 5) .800 (表 6) であった。

相手の発話への配慮と明瞭な自己表現は、会話の成立に関わる基本的な配慮であると言えるだろう。

続いて、因子の構成を観察すると類似点に気づく、自己表現に関わる配慮(表 4, 5, 6 の第 2 因子)と、対立を避けて相手との距離を保とうとする配慮(表 4, 6 の第 3 因子、表 5 の第 7 因子)は 3 つの表に共通する、自分の感情や意見を明示し率直に話そうとする

表 4: 非母語話者の意識的配慮¹⁰ (留学生 - 留学生の日本語会話(TLCS)と留学生 - 日本人の日本語会話(PLCS))

因子	因子名	固有値	寄与率
第1因子	不明点確認を行い、相手の話の理解に努める配慮	6.33	19.18
第2因子	自己表現を明瞭に行い,正確な発話に努める配慮	3.03	9.12
第3因子	相手の反応に注意し、対立を避けようとする配慮	2.51	7.61
第4因子	相手との違いや、相手の正確な理解に注意する配慮	1.92	5.83
第5因子	会話内容を深めようとし、発話を補う配慮	1.74	5.28
第6因子	不明点を表明せず、表面的にふるまう方略	1.48	4.44

表 5: 非母語話者の意識的配慮 (一二三 2000) (留学生 - 日本人の日本語会話 (PLCS) と留学生 - 留学生の母語会話)

因子	因子名	固有値	寄与率
第1因子	相手の情意面に注意を向けつつ、相手の話を促進し、会話を円滑に進めよ	9.73	22.1
	うとする配慮		
第2因子	自己表現を明瞭に行う配慮	3.74	8.5
第3因子	相互の正確な理解を達成させるための方略を駆使する配慮	3.19	7.2
第4因子	親しみを表しつつ会話を楽しもうとする配慮	2.39	5.4
第5因子	相手との協調的関係を築こうとする配慮	2.13	4.8
第6因子	自己の能力・関心に則して、無難に会話を進めていこうとする配慮	1.88	4.3
第7因子	自己を抑制し相手との距離を保とうとする配慮	1.61	3.7
第8因子	正しく適切な言葉使いで、誤解を避け、正確に理解し合うことを志す配慮	1.46	3.3

表 6: 母語話者の意識的配慮 (一二三 1999) (日本人-日本人の日本語会話と日本人-日本語学習者の日本語会話)

因子	因子名	固有値	寄与率
第1因子	相手の情意面を尊重しつつ会話参加を促す配慮	6.442	30.7
第2因子	自己表現を積極的に行う配慮	2.191	10.4
第3因子	対立を避け、自己を抑制する配慮	1.635	7.8
第4因子	会話の中断を避け、円滑な運用を志向する配慮	1.469	7.0

¹⁰ 本稿では「心理面の調節」として扱っているが、ここでは比較する際の便宜上「意識的配慮」と示す。また、括弧内には話者の組み合わせと会話場面を示した。

ことと、相手との衝突や深い関わりを避けようとすることは、会話中に必要不可欠な心理的働きであると考えられる。また前者には自己表現への開放性、後者には対人関係への忌避性という対照的な性質が読み取れる。4.2 節において、前者は留学生の TLCS で、後者は PLCS で有意に高く意識されることが明らかになった。一二三(2000)でも、前者は非母語話者同士が自分の母語を用いた母語場面で、後者は非母語話者にとっての PLCS で、有意に重要性が増すことが確認されている。つまりこの 2 つは、何らかの言語を用いて会話を成立させる上で、基本となる心理面の調節であり、特に非母語話者が対話者に合わせて使い分ける配慮と考えられる。

一方非母語話者の心理面にのみ現れる配慮もある。表 4 の第 4 因子と表 5 の第 8 因子は、相手との違いや正確な理解に注意する項目が集まっている。そして「言葉づかいが適当かどうかに気をつける」という項目は、因子負荷量はそれほど高くないものの 11 両因子に含まれている。このような因子が母語話者の配慮に現れなかったということは、非母語話者は母語話者と異なり、相互の違いや理解状態に気を配り、言葉づかいの適切さを重視していると言えるだろう。

以上をまとめると、心理面の調節にはどの場面の話者にも共通する配慮と、非母語話者のみが持つ配慮がある。相手の発話への配慮と明瞭な自己表現は、会話参加者が共有する会話の成立に必須の配慮である。そしてお互いの違いや正確な相互理解への気配りは、非母語話者特有の配慮である。また自己表現と対立回避に関する配慮は、会話参加者が共通して持つものの、非母語話者は場面によってその重要性を変動させている。次節ではこの変動の要因と、本研究のきっかけとなった「日本人と話すときは緊張する」「留学生同士で話すとリラックスして話せる」という意見との関連について考察する。

5.2 心理面の調節に与える影響

これまでの分析を踏まえ、非母語話者の心理面の調節の使い分けを場面ごとに詳しく考察していく.

まず、母語話者と話す PLCS で特に意識されるのは、相手に気をつかい問題化しないようにする配慮であった。これは先行研究で指摘されてきた、会話の成立を優先し、トラブルは未然に防ごうとする意識の活性化を支持する結果である。そして 4.2 節では、会話中は基本的に不明点確認に努めるはずが、母語話者に対してはそれがしにくくなると述べた。つまり PLCS では会話参加が消極的になると考えられる。5.1 節では、非母語話者特有の相互の違いや理解への気配りの重視を明らかにした。これは、母語話者に対しては自分との違いを意識しやすく、また自分の発話が正確に理解されているかという不安の現れと見られる。ファン(1998)は、非母語話者は理解や発話に関わる言語問題を留意する場合、参加回避と参加譲渡の調整ストラテジーを発動させるとしている。つまり PLCS では、相手の反応や理解状態を気にかけ、問題を起こさず対立を回避しようとする意識が働いて、会話参加が消極的になると思われる。そしてメッセージ縮小や、語彙の簡略化などの回避ストラテジー(村岡 1992) が用いられ、非用 12 にもつながると予想される。元田(2005)

¹¹ 表 4 の第 4 因子では .449、表 5 の第 8 因子では .320 の因子負荷量である.

¹² 実際にある言語を用いて、その結果表面に現れた間違いを「誤用」と言うのに対し、ある場面で日本人なら当然使うだろうと思われる表現を、学習者が使えない、あるいは使わないという現象を指す(水谷1984、1985).

によると、目標言語環境においては、発話活動における緊張と対人不安は似ている不安であると言う. 「日本人と話すときは緊張する」のは、相手を意識し会話を壊さないよう、うまく会話を成り立たせようと気をつかうことが、「緊張」につながるためではないだろうか. よって、自分の母語を用いずに、目標言語を母語とする相手と話す場合の、対人不安や理解や発話に関わる不安が、問題や衝突を起こさないようにしようとする心理面の調節につながり、言語行動に関連していくと推察される.

TLCSで特に重視される配慮の一つは、明瞭な自己表現に関することである。一二三 (2000, 2003) では、同母語の留学生同士が母語で話すとき、自己の感情や意見を明瞭に 表現し、会話に対する積極性を示してお互いの深い理解を志向するとされている。すなわ ち TLCS と同様の傾向が見られる。会話成立に必須の積極性を表す意識が、留学生同士の 場面で重要性を増すということは、母語または目標言語が同じ相手と話すことに、積極性 に関わる要因があると考えられる.ファン(1999),春口(2004)は,TLCSの特徴とし て言語ホストーゲスト関係が固定されないことを指摘しているが、これは母語場面でも同 様だろう。つまり話者同士が使用言語を母語として共有しているため、言語ホストーゲス トは固定化も成立もしにくい、一方で元田(2000)は、目標言語不安は根本的には他者を 意識して生じる不安であるとしている。また八島(2003)は、不自由な第二言語を使うこ とと、周囲の評価を意識することで、学習者の不安は引き起こされると述べている。しか し本研究の結果から考えると、使用言語が目標言語であっても、母語場面における母語の ように、対話者間で目標言語として共有されていれば、他者からの評価を気にせず積極的 な自己表現が可能になると言える。さらにもう一つ重視されるのは、会話内容の深まりと それを補う方略である、複雑な考えや個人的なことを話そうとし、さまざまな方略を用い てやりとりを達成させようとすることは、会話参加が活性化されていると言えるだろう。 つまり TLCS は PLCS とは反対に、不安や緊張が緩和され、開放的に、内容を深めながら、 納得がいくまで話し合える状態にある.そのため、「留学生同士で話すとリラックスして 話せる」という意見が現れるのではないだろうか、当初の予想のように、対話者間での対 称的な参加とまでは言い切れないが、母語または目標言語を共有する相手と話す場合は、 言語的オーソリティーに関わる対人関係を留意せず、表現や会話内容について配慮し、積 極的な言語行動につながっていくことが示唆される.

結論として、非母語話者の心理面の調節を変動させる要因は、対話者との間で、使用言語を母語または目標言語として共有しているかいないかであるとまとめられる。対話者にとっては母語、自分にとっては目標言語という、使用言語についての背景が共有されないPLCS は、不安と緊張が対立や問題回避の意識に作用する。使用言語を目標言語として共有するTLCS と、母語として共有する母語場面では、調節される配慮が類似し、不安や緊張を持たずに発話自体に意識が向けられる。そして最終的に、非母語話者の心理面の調節に関する特徴と留学生自身の見解との関連が導かれた。

6. 今後の課題

ここまで、非母語話者が行う心理面の調節と、それに影響を与える要因について考察してきた、以下で、今回の結果を踏まえ今後の課題について言及する.

本研究は、非母語話者の日本語会話場面の心理面の調節を調査し、先行研究との比較か

ら,話者が用いる基本的な調節と,非母語話者が特徴的に用いる調節を明らかにした。そして対話者間での使用言語の共有状態が,心理面の調節に影響を与えると結論づけた。さらに調節の変動が,留学生が会話に対して持つ印象と関係しているという示唆を得た。ただしこの関係を実証するためには、今後回帰分析やパス解析を用いた統計的分析が必要になるだろう。

また5節では、心理面の調節が言語行動にも影響を与えているという考察を行った. Howritz(1986)、倉八(1990)によると、学習者はコミュニケーション時に不安を感じると、なるべく短い文で答え、不安を感じる時間を回避しようとすると言う。これは外国語学習特有の不安であり、不安を低くすることが学習をより効率的にするとされている。 TLCS では緊張や不安が軽減され、自己表現を率直に行うことができ、発話内容も発話方略もさまざまに試みることが可能である。よって外国語学習の観点から見ると、TLCS は何らかの学習効果が期待できる場面と考えられる。しかし日常のTLCS の研究は端初についたばかりであり、今後の研究が待たれる。一方教室場面の研究には、学習者同士が協働的に問題解決する中で学び合うピア・ラーニング(池田・舘岡 2007)や、学習者の主体性を重視した自律学習(青木 2005)に関するものも増えてきている。これらの知見を参考に分析を進めていくことも可能だろう。以上2点を課題とし、今後は TLCS で可能になる学習を考えていきたい。

最後に、今回は心理面の調節に影響を与える要因として、滞在期間や日本語能力の分析は参考までに留めた。しかし対日態度に関する研究(岩男・萩原 1988、山崎 1993)と同じように、滞在期間が長期に渡れば、配慮との関係が示される可能性は否定できない。その検証のためには、対象を拡大した調査が必要である。また今回の分析では、調査協力者の出身国や、母語と調査票選択言語の偏りについての影響は、アジア系留学生の母集団を反映するものとして捉えた。しかし出身国や母語などの背景と心理面の関係を探るためには、各背景別の調査並びに分析も必要になるだろう。さらに、多言語による質問紙調査の場合、調査票言語に対しての習熟度が結果に影響する可能性がある。今回は調査票記入時の対応でフォローをするようにしたが、精緻なデータ収集のために、各母語に対応できるより多くの言語の調査票作成を今後の課題としたい。

文献

- Crystal, D.(2003) *English as a global language*. (2nd ed. First ed., 1997), Cambridge: Cambridge University Press.
- Fan, S. K. (1994) Contact situations and language management. Multilingua, 13(3):237-252.
- Horwitz, E. K., Horwitz, M. B., & Cope, J.(1986) Foreign language classroom anxiety. The Modern Language Journal, 70:125-132.
- Neustupný, J.V.(1985) Problems in Australian-Japanese contact situations. In Pride, J. B.(ed.), Cross-cultural encounters: communication and miscommunication, Melbourne: River Seine, 44-64.
- Simic, M., & Tanaka. T. (2008) The role of Japanese context in the L2 and L3 language use among international students in Japan. 『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 25: 45-59.

- Simic, M., Tanaka. T. & Yashima.T.(2007) Willingness to communicate in Japanese as a third language among international students in Japan. *Multicultural Relations*, 4:101-122.
- Smith, L.(1976) English as an international auxiliary language. RELC Journal, 7(2):38-43.
- 青木直子 (2005)「自律学習」『新版日本語教育辞典』773-774.
- 赤羽優子 (2013)「アジア系留学生の日本語会話における意識的配慮」『計量国語学会第 57 回大会予稿集』13-18.
- 新井優子 (2012)「日本語会話における留学生の会話への印象―対話者の違いによる影響に 注目して―」『日本語コミュニケーション研究論集』 2:54-68.
- 家村伸子 (1993)「日本語否定疑問文の応答に関する中間言語研究」『日本語教育』81:81-92.
- 池田玲子・舘岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 岩男寿美子・萩原滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生: 社会心理学的分析』勁草書房
- 岩田夏穂 (2006)「日本語非母語話者同士の参加の様相―留学生の自由会話の場合―」『人間文化論叢』 9:175-187.
- 内田裕美 (1997)「ノンネイティブ同士の意味交渉の重要性」『平成 9 年度日本語教育学会 春季大会予稿集』97-74.
- 大平未央子 (2000) 「日本語の母語話者と非母語話者のインターアクションにおける相互理解の構築― 関連性理論の観点から」『日本語教育』105:71-79.
- 尾崎明人 (1993) 「接触場面の訂正ストラテジー―「聞き返し」の発話交換をめぐって―」 『日本語教育』81:19-30.
- 勝谷紀子・山本直美・板元章 (2001)「アジア系留学生と日本人学生の相互知覚ギャップ: 女子の大学生に対する実験」『社会心理学研究』17(1):43-54.
- 加藤好崇 (2010) 『異文化接触場面のインターアクション―日本語母語話者と日本語非母語話者のインターアクション規範』 東海大学出版会
- 倉八順子 (1991)「外国語学習における情意要因についての考察」『慶応大学大学院社会学研究科紀要: 社会心理学教育学』33:17-25.
- 桑原尚史・西田公昭・浦光博・榧野潤 (1989)「社会的文脈における会話処理過程の検討」 『心理学研究』60:163-169.
- 国立国語研究所編 (2006)『日本語教育の新たな文脈学習環境,接触場面,コミュニケーションの多様性』アルク
- 竹原卓真 (2007) 『SPSS のススメ (1)2 要因の分散分析をすべてカバー』 北大路書房
- 田中共子 (1995)「在日外国人留学生による日本人との対人関係の困難に関する原因認知」 『学生相談研究』16:23-31.
- 田中共子 **(2000)**『留学生のソーシャル・ネットワークとソーシャル・スキル』 ナカニシヤ 出版
- 田中望・中畠孝幸・古河ちかし (1983) 「外国人の日本語行動」 『日本語教育』 49:59-73.
- 田丸淑子・吉岡薫・木村静子 (1993)「学習者の発話に見られる文構造の長期的観察」『日本語教育』81:43-54.
- 椿由紀子 (2010)「コミュニケーション・ストラテジーとしての「聞き返し」教育—実際場面で使用できる「聞き返し」をめざして」『日本語教育』 147:97-111.

- 独立行政法人日本学生支援機構 (2010) 『平成 22 年度外国人留学生在籍状况調査結果日本 語版』 http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/documents/data10.pdf (平成 25 年 8 月 20 日)
- 豊田秀樹 (1998) 『共分散構造分析 [入門編]』朝倉書店
- 長友和彦 (1990)「誤用分析研究の現状と課題|『広島大学留学生センター紀要』1:23-40.
- 西田公昭・浦光博・桑原尚史・榧野潤 (1988)「対人相互作用に及ぼす会話の媒介的影響」 『社会心理学研究』 3:46-55.
- ネウストプニー, J.V. (1981)「外国人場面の研究と日本語教育」『日本語教育』 45:30-40.
- ネウストプニー.J.V. (1995a) 『新しい日本語教育のために』 大修館書店
- ネウストプニー, J.V. (1995b)「日本語教育と言語管理」『阪大日本語研究』7:67-82.
- 春口淳一 (2004) 「言語ホストとしての上級学習者の自己調整参加調整ストラテジー ―第 三者言語接触場面における会話参加の一考察」『千葉大学日本文化論叢』5:73-86.
- 春原憲一郎 (2008)「学習者の多様化と日本語教育」『日本語教育』 139:12-23.
- 一二三朋子 (1995)「母語話者と非母語話者との会話における母語話者の意識的配慮の検討」 『教育心理学研究』 43:277-288.
- 一二三朋子 (1999)「非母語話者との会話における母語話者の言語面と意識面の特徴及び両者の関連―日本語ボランティア教師の場合―|『教育心理学研究』47:490-500.
- 一二三朋子 (2000)「日本人との会話における外国人の意識的配慮の検討」『東京成徳大学 研究紀要』7:21-28.
- 一二三朋子 (2003)「意識的配慮の共生的学習に関する因果モデルの検討―アジア系留学生 の場合―|『教育心理学研究』51:175-186.
- 一二三朋子 (2010)「多言語・多文化社会での共生的学習とその促進要因の検討―日本におけるアジア系留学生を対象に―」『日本語教育』146:76-89.
- ファン, S.K.(1998)「接触場面における言語管理」『日本語総合シラバスの構築と教材開発指針の作成 研究会発表原稿・会議用録』1-16. 国立国語研究所
- サウクェン・ファン (1999)「非母語話者同士の日本語会話における言語問題」『社会言語 科学』 2(1):37-48.
- サウクェン・ファン (2003)「日本語の外来性(foreignness): 第三者言語接触場面における参加者の規範及び規範の管理から」『接触場面と日本語教育』宮崎里司・H. マリオット(編) 3-21. 明治書院.
- サウクェン・ファン (2011)「第三者言語接触場面と日本語教育の可能性」『日本語教育』 150:42-55.
- 藤長かおる (1996)「初級中日本語学習者のコミュニケーション能力についての一考察―話 し手としてのコミュニケーション・ストラテジーの観察―」『日本語国際センター紀 要』 6:51-69.
- 水谷信子 (1984) 「誤用分析 1~5」 『日本語学』 明治書院
- 水谷信子 (1985)『日英比較・話しことばの文法』くろしお出版
- 三牧陽子 (2005)「大学コミュニティーにおける留学生のコミュニケーションに関する研究」『平成 14 年度 ~ 平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 研究成果報告書』
- 村岡英裕 (1992)「実際使用場面での学習者のインターアクション能力について―ビジタ

- 一・セッション場面の分析──|『世界の日本語教育』2:115-128.
- 村岡英裕 (2002)「在日外国人の異文化インターアクションにおける調整行動とその規範に 関する事例研究」『接触場面における言語管理について (II) 千葉大学大学院社会文化 科学研究所研究プロジェクト報告書』38:115-126.
- 元田静 (2000) 「日本語不安尺度の作成とその検討:目標言語使用環境における第二言語不安の測定」『教育心理学研究』4(4):422-432.
- 元田静(2005)『第二言語不安の理論と実態』渓水社
- 八島智子 (2003)「第二言語コミュニケーションと情意要因「言語使用不安」と「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」についての考察」『関西大学外国語教育研究』5:81-93.
- 山﨑瑞紀 (1993)「アジア系留学生の対日態度の形成要因に関する研究」『心理学研究』 64(3):215-223.

斜辞

本論文作成にあたり、小野正樹先生、一二三朋子先生、岡崎敏雄先生に多くのご指導をいただきました。また査読者の先生方、李在鎬先生に多くの有益なご助言をいただきました。 心より感謝申し上げます。本研究は日本学術振興会特別研究員奨励費(13J01204)の助成を受けたものです。

(2013年12月25日受付, 2014年4月1日再受付)

付録

アンケート (日本語版)

①日本人と日本語で会話するときと、②留学生と日本語で会話するとき、それぞれの会話で、どのよう

な点に注意しますか。5~1でお答えください。

SAMOLE OR THE STATE OR THE STAT		
とてもあてはまる $\begin{bmatrix} 5 & 4 & 3 \end{bmatrix}$	_ 2 _ 1 _ 全くあてに	はまらない ・
	①日本人と日本語で会話	②留学生と日本語で会話
1. 自分の意見を積極的に言う	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
2. 感情をはっきり出す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
3. 自分の意見はストレートに言う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
4. いやならいやとはっきり言う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
5. 日常的なことを話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
6. 相手と意見が違うときは納得いくまで話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
7. 冗談を言って相手を楽しませる	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
8. 文法的に正しく話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
9. 正しく発音する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
10. 自分と相手との文化慣習の違いに注意する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
11. 相手が自分の話を正確に理解しているかに注意する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
12. 相手の話の内容を正確に理解しようと努める	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
13. 言葉づかいは適当かどうかに気をつける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
14. わからない内容は繰り返してもらい確認する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
15. わからない言葉は繰り返してもらい確認する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
16. 相手にも話す機会を与える	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
17. 相手の話を最後まで聞く	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
18. 話が途切れないように気をつける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
19. 相手の気持ちを考え、失礼にならないようにする	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
20. 相手の反応に合わせて、自分の意見を変える	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
21. 相手の反応から、相手の感情や意見を推測する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
22. 相手が自分をどう思っているかに注意する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
23. 議論は避ける	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
24. 中立的な立場で意見を言う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
25. 内容がわからなくてもわかったふりをする	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
26. 言葉がわからなくてもわかったふりをする	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
27. あいづちをうつ	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
28. 省略できることばは短く省略する	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
29. 敬語を使う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
30. 日本語でなんというかわからない単語を、自分で作る	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
31. 気楽に話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
32. うまく説明できないことは話さない	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
33. 自分の関心のあるテーマについて話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
34. お互いに共通することを話題にする	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
35. プライベートなことでも話す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
36. 身振りやジェスチャーを多く使う	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1
37. 複雑な考えと内容を伝える	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
38. 日本語に特有の表現(やりもらいの表現など)を使うようにする	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
39. 相手の発話を自分の発話で補う (サポートする)	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
40. 相手の発話を肯定する	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1
41. 自分の言い方が間違っていることに気づいたらすぐ言い直す	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1

★★★ご協力どうもありがとうございました。

アンケート (英語版)

①talk with a Japanese native speaker in Japanese, ②talk with an international student in Japanese

On what points do you pay attention to in each conversation? Please circle a number from 1 to 5.

5 = I pay close attention. 5 4 3 2 1 1 = I do not pay any close attention,

		Japa	a	international									
		speaker in					student in Japanese						
1.	I express my opinion actively	5	4			1	5	4					
2.	I express my emotion explicitly	5	4	3	2	1	5	4	3		1		
3.	I express my opinion straightforward	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
4.	I say no when I disagree	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
5.	I talk about things that happens daily	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
6.	I discuss fully and in depth when we disagree	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
7.	I make jokes and entertain my conversation partner	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
8.	I speak correctly in terms of Japanese grammar	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
9.	I pronounce correctly	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
10.	I respect cultural differences	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
11.	I am careful to make sure that my conversation partner understands what I want to say	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
12.	I try hard to understand what my conversation partner says	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
13.	I am careful to speak politely and properly.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
14.	I ask my partner to repeat the content of what he/she says when I cannot understand	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
15.	I ask my partner to repeat the words of what he/she says when I cannot understand.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
16.	I give opportunities to my conversation partner to talk	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
17.	I listen until my conversation partner finishes what he/she wants to say	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
18.	I try to keep the flow of conversations	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
19.	I respect my conversation partner	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
20.	I change my opinion according to my conversation partner's reaction	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
21.	I can guess my conversation partner's feeling and opinion from his/her reaction	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
22.	I pay attention to what my conversation partner will think of me	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I avoid discussion	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
24.	I give opinion from neutral points of view	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I pretend to understand the content of my partner's utterance when in fact I do not understand	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
26.	I pretend to understand $\mbox{the words}$ of my partner's utterance when in fact I do not understand	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
27.	I nod frequently	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I avoid redundancy and omit words when I can.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I use respectful language and idioms (i.e. Keigo and Teineigo).	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I make up words by myself when I do not know how to describe things in Japanese.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
31.	I am relaxed and talk freely.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I avoid topics and concepts that are hard to explain.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I talk about things which interests me	5	4	3	2	1	5	4	3		1		
	We talk about topics in which we both are interested.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I even talk about topics that are personal.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I use a lot of body language.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I convey complex ideas and concepts	5	4	3	2	1	5	4	3		1		
	I try to use such typical Japanese expressions as あげる、くれる、もらう.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I try to compensate a partner's utterance with my utterance.	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I concede to what my conversation partner says	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1		
	I correct myself when I realize that I use wrong expressions.	5	4	3	2	1	:	4	3		1		
71.	reorrect myseri when i realize that i use wrong expressions.						our.				_		

★★★ Thank you for your cooperation

アンケート (中国語(簡体字)版)

	①用日语和日本人说的时候	②用日语和留学生说的时候						
1. 积极地说出自己的意见	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
2. 清楚表达出感情	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
3. 直接说出自己的意见	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
4. 觉得讨厌的话会清楚地说出来	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
5. 谈日常的事情	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
6. 和对方意见不同时会一直说到接受为止	5 4 3 2 1	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
7. 说说笑话使对方感到愉快	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
8. 按照文法正确地说出	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
9. 正确地发音	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
10. 注意彼此之间文化习惯的不同	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
11. 注意对方是否正确理解自己所要表达的	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
12. 尽可能去正确理解对方的谈话内容	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
13. 注意自己的措词是否适切	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
14. 听不懂的内容会请对方重复再确认一次	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
15. 听不懂的词汇会请对方重复再确认一次	5 4 3 2 1	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
16. 让对方也有发言的机会	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
17. 会听对方把话说完	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
18. 小心不要说话断断续续	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
19. 考虑到对方的心情,尽量避免失礼	5 4 3 2 1	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
20. 为迎合对方的反应而改变自己的意见	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
21. 从对方的反应来推测对方的感情和意见	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
22. 注意对方对自己的看法	5 4 3 2 1	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
23. 避免议论	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
24. 站在中立的立场表达意见	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
25. 对於不懂的內容会裝出理解的样子	5 4 3 2 1	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
26. 对於不懂的词汇会裝出理解的样子	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
27. 会答腔	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
28. 能省略的话句尽量省略	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
29. 使用敬语	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
30. 不知如何用日语表达的单字会自己创造	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
31. 以轻松的心情谈话	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$						
32. 不说无法完整表达的事情	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
33. 说自己关心的主题	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
34. 将双方共通的部分当做话题	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
35. 也说自己的私事	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
36. 大量使用肢体语言和动作	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	$5\ 4\ 3\ 2\ 1$						
37. 表达复杂的想法	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
38. 尽可能使用日语特有的表现(表现等)	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
39. 以自己的发话来补足(支援)对方的发话	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
40. 肯定对于对方的发话给予	$5 \ 4 \ 3 \ 2 \ 1$	5 4 3 2 1						
41. 如果发觉自己的说法错了会马上重说	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
		▲▲北党咸油你的抽用						

★★★非常感谢您的协助。

アンケート (中国語 (繁体字)版)

① 用日語和日本人說的時候、② 用日語和留學生說的時候 在各別的會話之中,注意到哪些點呢?請按

照 5~1 的等級回答。

非常注意 (照那樣說) 5 4

4	3	2	1	完全沒注意(完全沒那樣說)

1・積極地設出自己的意見		①用日語和日本人說的時候	②用日語和留學生說的時候						
2 · 清楚表盤出感情	1. 積極地說出自己的意見	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
4・優得討厭時會清楚地說出來 5・該日常的事情 5・被別方意見不同時會一直說到對方接受為止 7・說說突話使對方國別愉快 5・4 3 2 1 5・4 3 2 1 5・4 3 2 1 5・2 4 3 2 1 5・3 4 3 2 1 5・5 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・6 4 3 2 1 5・7 6 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
5・談日幣的事情 6・和對方愈見不同時會一直說到對方接受為止 7・說說笑話使對方處到倫快 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 7・說說笑話使對方處到倫快 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 7・說說笑話使對方處到倫快 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 7・說說笑話使對方處到倫快 5 4 3 2 1 7・記說笑話在確地說出 9・正確地發音 5 4 3 2 1 7・注意数方是否正確理解自己所要表達的 10・注意被止之間文化習慣的不同 5 4 3 2 1 10・注意被方是否正確理解自己所要表達的 11・注意對方是否正確理解自己所要表達的 12・盡可能去正確理解對方的該話內容 5 4 3 2 1 13・注意目の計辭是否適切 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 13・注意目の計辭是否適切 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 13・注意到方是否正確理解自己所要表達的 15 4 3 2 1 15 5 4 3 2 1 16 經對方也的解決會論對方重複以便做確認 5 4 3 2 1 17・會聽對方也的所決會論對方重複以便做確認 5 4 3 2 1 18・小心不要說話證醫斷續續 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 17・會聽對方的心情,盡量避免失禮 19・考慮對方的心情,盡量避免失禮 19・考慮對方的心情,盡量避免失禮 19・考慮對方的心情,盡量避免失禮 19・考慮對方的反應而改變自己的意見 19・考慮對方的反應來推測對方的感情和意見 19・考慮對方的反應而改變自己的意見 10・注意對方對自己的看法 10・注意對方對自己的看法 10・注意對方對自己的看法 10・注意被分的內容會裝出理解的樣子 10・注意對方對自己的看法 10・注意對方對自己的過去 10・注意對方對自己的過去 10・注意對方對自己的過去 10・注意被求益的解決會自己创造 10・注意被求益的解決音音的表現的概分。 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
6 ・和對方意見不同時會一直說到對方接受為止 7 ・該就笑話使對方感到愉快 8 ・按照文法正確地說出 5	4・覺得討厭時會清楚地說出來	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
7・統統突話使對方感到愉快	5・談日常的事情	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
8 · 按照文法正確地說出	6·和對方意見不同時會一直說到對方接受為止	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
9 · 正確地發音	7. 說說笑話使對方感到愉快	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
10 : 注意使此之間文化習慣的不同	8. 按照文法正確地說出	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
11	9. 正確地發音	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
12 · 盡可能去正確理解對方的談話內容	10.注意彼此之間文化習慣的不同	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
13 · 注意自己的措辭是否適切	11 · 注意對方是否正確理解自己所要表達的	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
14 · 對於不懂的內容會請對方重複以便做確認	12. 盡可能去正確理解對方的談話內容	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
15 · 對於不懂的辭彙會請對方重複以便做確認	13 · 注意自己的措辭是否適切	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
16 · 讓對方也有發言的機會	14. 對於不懂的內容會請對方重複以便做確認	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
17・會聽對方把話說完	15.對於不懂的辭彙會請對方重複以便做確認	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
18・小心不要說話斷斷續續	16·讓對方也有發言的機會	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
19 · 考慮對方的心情,盡量避免失禮	17・會聽對方把話說完	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
20 · 為迎合對方的反應而改變自己的意見 21 · 從對方的反應來推測對方的感情和意見 22 · 注意對方對自己的看法 23 · 避免爭論 24 · 站在中立的立場表達意見 25 · 對於不懂的內容會裝出理解的樣子 26 · 對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子 27 · 會答腔 28 · 能省略的話句盡量省略 29 · 使用敬語 30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 31 · 以輕鬆的心情談話 32 · 不該無法完整表達的事情 33 · 談自己關心的主題 34 · 將彼此共通的部分當作話題 35 · 七 3 · 2 · 1 36 · 大量使用肢體語言和動作 36 · 大量使用肢體語言和動作 37 · 表達複雜的想法 38 · 盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 39 · 以自己的發話來補足(支援)對方的發話 40 · 肯定對方的發話	18・小心不要說話斷斷續續	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
21 · 從對方的反應來推測對方的感情和意見	19.考慮對方的心情,盡量避免失禮	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
22 · 注意對方對自己的看法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 23 · 避免爭論 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 24 · 站在中立的立場表達意見 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 25 · 對於不懂的內容會裝出理解的樣子 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 26 · 對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 27 · 會答腔 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 28 · 能省略的話句盡量省略 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 29 · 使用敬語 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31 · 以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 32 · 不談無法完整表達的事情 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 33 · 談自己關心的主題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 34 · 將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 35 · 也談自己的私事 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 36 · 大量使用肢體語和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37 · 表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(支援對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40 · 肯定對方的	20 · 為迎合對方的反應而改變自己的意見	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
23 · 避免爭論 24 · 站在中立的立場表達意見 25 · 對於不懂的內容會裝出理解的樣子 26 · 對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子 27 · 會答腔 28 · 能省略的話句盡量省略 29 · 使用敬語 30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 31 · 以輕鬆的心情談話 32 · 和 3 · 2 · 1 32 · 不談無法完整表達的事情 31 · 以輕鬆的心情談話 32 · 不談無法完整表達的事情 33 · 談自己關心的主題 34 · 將彼此共通的部分當作話題 35 · 4 · 3 · 2 · 1 36 · 大量使用肢體語言和動作 36 · 大量使用肢體語言和動作 37 · 表達複雜的想法 38 · 盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 39 · 以自己的發話來補足(支援)對方的發話 40 · 肯定對方的發話 41 · 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說	21. 從對方的反應來推測對方的感情和意見	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
24 · 站在中立的立場表達意見 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 25 · 對於不懂的內容會裝出理解的樣子 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 26 · 對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 27 · 會答腔 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 28 · 能省略的話句盡量省略 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 29 · 使用敬語 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31 · 以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 32 · 不談無法完整表達的事情 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 33 · 談自己關心的主題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 34 · 將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 35 · 也談自己的私事 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 36 · 大量使用肢體語言和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37 · 表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40 · 肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41 · 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41 · 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	22. 注意對方對自己的看法	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
25 · 對於不懂的內容會裝出理解的樣子	23 · 避免爭論	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
26 · 對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子	24. 站在中立的立場表達意見	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
27・會答腔 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 28・能省略的話句盡量省略 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 29・使用敬語 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 30・不知如何用日語表達的單字會自己創造 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31・以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 32・不談無法完整表達的事情 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 33・談自己關心的主題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 34・將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 35・也談自己的私事 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 36・大量使用肢體語言和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37・表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38・盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39・以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40・肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41・如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	25.對於不懂的內容會裝出理解的樣子	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
28 · 能省略的話句盡量省略	26.對於不懂的辭彙會裝出理解的樣子	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
29 · 使用敬語 30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31 · 以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31 · 以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 32 · 不談無法完整表達的事情 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 33 · 談自己關心的主題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 34 · 將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1	27・會答腔	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
30 · 不知如何用日語表達的單字會自己創造 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 31 · 以輕鬆的心情談話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 32 · 不談無法完整表達的事情 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 33 · 談自己關心的主題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 34 · 將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 35 · 也談自己的私事 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 36 · 大量使用肢體語言和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37 · 表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38 · 盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40 · 肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41 · 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	28·能省略的話句盡量省略	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
31 · 以輕鬆的心情談話	29 · 使用敬語	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
32 · 不談無法完整表達的事情	30·不知如何用日語表達的單字會自己創造	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
33 · 談自己關心的主題	31.以輕鬆的心情談話	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
34 · 將彼此共通的部分當作話題 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 35 · 也談自己的私事 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 36 · 大量使用肢體語言和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37 · 表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38 · 盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39 · 以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40 · 肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41 · 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	32. 不談無法完整表達的事情	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
35 · 也談自己的私事	33·談自己關心的主題	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
36 · 大量使用肢體語言和動作 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 37 · 表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38 · 盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
37·表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38·盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39·以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40·肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41·如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	35. 也談自己的私事	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
37·表達複雜的想法 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 38·盡可能使用日語特有的表現(授受表現) 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 39·以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40·肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41·如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	36・大量使用肢體語言和動作	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
39·以自己的發話來補足(支援)對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 40·肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41·如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
40·肯定對方的發話 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1 41·如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	38·盡可能使用日語特有的表現(授受表現)	5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
40·肯定對方的發話5 4 3 2 15 4 3 2 141·如果發覺自己的說法錯了會馬上重說5 4 3 2 15 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
41. 如果發覺自己的說法錯了會馬上重說 5 4 3 2 1 5 4 3 2 1		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
★★★非常感謝您的協助。		5 4 3 2 1	5 4 3 2 1						
			★★★非常感謝您的協助。						

アンケート (韓国語版)

① 일본인과 일본어로 회화했을 때,② 유학생과 일본어로 회화했을 때 각각의 회화에서, 어떤 점에주의하겠습니까. 5∼1에 표를 해주세요. 매우 주의한다 (그렇게 한다) 5 4 3 2 1

전혀 주의하지않는다 1 전혀 주의아이동니다. (전혀 그렇게 하지 않는다)

	1	일본인과 일본어로 회화했을 때			②유학생과 일본어로 회화했을 때					
1. 자신의 의견을 적극적으로 말한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2. 감정을 분명히 표현한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 자신의 의견을 스트레이트하게 말한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4. 싫으면 [아니]라고 분명히 말한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5. 일상적인 일을 이야기한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6. 상대와 의견이 다를 때는 납득 갈 때까지 이야기한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7. 농담으로 상대를 즐겁게 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8. 문법을 올바르게 사용한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9. 발음을 정확히 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
10. 상대와의 문화 관습 차이에 주의한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
11. 상대가 자신의 이야기를 정확하게 이해하고 있을까에	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
주의한다										
12. 상대의 이야기 내용을 정확하게 이해하려고 노력한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
13. 어투가 적당한지 조심한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
14. 모르는 내용은 반복해서 확인한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
15. 모르는 단어는 반복해서 확인한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
16. 상대에게도 이야기할 기회를 준다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
17. 상대의 이야기를 끝까지 듣는다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
18. 이야기가 중단되지 않게 노력한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
19. 상대의 기분을 생각해, 실례가 되지 않도록 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
20. 상대의 반응에 따라, 자신의 의견을 바꾼다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
21. 상대의 반응으로부터, 상대의 감정이나 의견을 추측한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
22. 상대가 자신을 어떻게 생각하고 있을까에 주의한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
23. 논쟁은 피한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
24. 중립적인 입장에서 의견을 말한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
25. 내용을 몰라도 아는 체를 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
26. 단어를 몰라도 아는 체를 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
27. 맞장구친다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
28. 생략할 수 있는 말은 짧게 생략 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
29. 경어를 사용한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
30. 일본어로 뭐라고 하는지 모르는 단어는 스스로 만든다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
31. 편하게 이야기한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
32. 설명하기 힘든 것은 이야기하지 않는다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
33. 자신이 관심있는 주제에 대해 이야기한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
34. 서로 공통되는 것을 화제로 삼는다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
35. 사적인 것에 대해서도 이야기한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
36. 몸짓이나 제스추어를 많이 사용한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
37. 복잡한 생각과 내용을 전달한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
38. 일본어 특유의 표현(예:やりもらい)을 사용하려고 한다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
39. 상대의 발화를 자신의 발화로 보충한다(서포트한다)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
40. 상대의 말에 긍정한다(혹은 긍정하는 feed back 를 한다)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
41. 자신의 말이 틀렸다고 깨달으면 바로 고친다	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
, _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _ , _				-	-	•				·니다
						~ ^		1 1	, 1	' '

Paper

Non-Native Speaker's Internal Conversation Process in Japanese:

Focusing on Asian Students' Third-party and Partner Language Contact Situations

Yuko AKAHANE (Graduate Student of University of Tsukuba, Research Fellow of the Japan Society for the Promotion of Science)

Abstract:

This paper attempts to reveal and examine the psychological process by non-native speakers (NNS) of Japanese in two different conversation situations: NNS-NNS (Third-party Language) and NNS-NS (Partner Language). 74 students from Asian countries answered questionnaires regarding their feelings, concerns and where they place their attention during each conversation. Factor analysis of the 148 data samples collected has identified 6 psychological process rules from these conversations. The factor scores were further analyzed by paired *t*-test, and the result indicates that NNS tend to consciously pay more attention to NS partner's facial expressions and behaviors, and try to avoid conflicts or problems when they communicate. On the contrary, conversations between NNS-NNS show that they tend to express themselves more actively and consciously try to develop the conversation further. Therefore, this result suggests that NNS's psychological process can be related to the following assumption by the NSS: Partner language contact situation cases tend to make NNS nervous; while Third-party language contact situation cases are received as more relaxing conversations.

Keywords: contact situation, third-party language contact situation, partner language contact situation, psychological process of conversation, Asian students, factor analysis, *t*-test. ANOVA